



バイオゲンのおすすめ

- 土中有益微生物の増殖を促し
培養土を活性化する
- 排水性、通気性など土の物理性を改善し、
生育抜群の生きた土となる

“肥料を与える目的は土の肥沃化と土中微生物の活性化にある”

根の働きが活発になり生育の良い土とはどんな土 …… 重要な土中微生物の働き

根は、土の中に溶けている様々な成分の中から、必要とする成分のみを選択的に必要な量を取り入れています。

根の中でも水や栄養分を吸収する働きをしているのは若い根と根毛です。

根毛は表面積が極めて広く、効率よく吸収できる構造です。

さらに、根が水分や栄養分を吸収するためにはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは光合成でつくられたデンプンが根に送られ、酸素と結合することで生まれます。

つまり、根の働きを活発にし栄養分や水を吸収し生長するためには酸素が必要である、ということです。

すなわち、良い土とは酸素(空気)が充分に入り、呼吸により出た炭素ガスを効率よく鉢外に排出できる通気性

の良い土のことであり、

さらに生長に必要な栄養分や水が充分にあることが重要です。

粗い土では通気性は良くても保水力がありません。

細かな土は保水力はあっても通気性が悪くなってしまう。

この相反する条件を両立させるのが土の生物的条件。

すなわち、微生物の働きにより形成される土の団粒構造です。

団粒構造は小さな土の粒子の集合体であり、粒の中には水や肥料を持ち、粒と粒のすき間は通気性や排水性を保ちます。

こうして通気性・排水性がよく、しかも保水力のある生育の良い土ができます。

土の肥沃化と土中微生物の活性化には発酵した有機肥料が最適

植物は土中の栄養分を吸って生長しています。

土中の栄養分が減ってくると、生長の勢いが衰える為、追肥をし、栄養分を補給することになります。

追肥の目的は、菊に与えると言うよりむしろ「力の低下した土の体力を回復させる」の考え方が正解です。

さらに生育の良い状態に土を保つ為には土中有益微生物の働きや増殖を活発にする必要があります。

その栄養分は施される肥料です。

土中の微生物は有機物を栄養源(エサ)としている為、有機肥料が極めて効果的です。

また有機肥料であっても「発酵してある肥料」と「未発酵の肥料」とでは、その効果は全く別物です。

発酵した有機肥料には材料そのものの栄養分の他発酵過程で微生物の世代交代により(死菌体から)放出される栄養分と活動により産出される栄養分が凝縮されています。

その成分はチッ素・リン酸・カリなどの無機栄養分の他、アミノ酸・ビタミン・ミネラル・生長ホルモン・酵素等々が含まれ“イキイキと”“力強く”など次元の違う生育をします。

さらに増殖され塊となった有益微生物(生菌体の利用)は培養土を活性化(生きた土)し、根の活力向上、生育促進などに効果的に作用します。

一方未発酵な有機肥料は鉢に施された時から発酵が始まり、発酵初期には病原菌が多く発生し立枯れの原因や根いたみ根ぐされの原因となる為、使用しないことが鉄則です。

(菊つくりの乾燥肥料は、昔からこの障害を回避する為に発酵して使用してきた)

化学肥料は微生物の栄養源にはならない為、土の活性効果は得られず土の荒廃化をまねくだけです。



南砺市菊まつり